

22.2.27 KT師重賞本命と見解「中山記念・阪急杯」

中山記念

非根幹距離適性と、小回りの流れに乗れるスピードが問われるレース。

本命はマルターズディオサ。

昨年末から年明けにかけての非根幹距離重賞でもキズナ産駒は穴馬券を続々と出しました。

古馬混合戦で馬券になったのはいずれも非根幹距離で54キロ以下の斤量。

近2走は根幹距離。斤量も56キロ。

このレースは道中がハイペースになりそうで、延長で流れに乗れるのも有利。

ウインイクシードも非根幹距離が有利なマンハッタンカフェ産駒。

カラテは父も母父も非サンデー系。近親に非根幹距離で減速しにくいステイゴールド。

相対的に1600mよりも1800mの方が有利になる可能性も十分。

阪急杯

ここ数年の阪神芝 1400m は軽い馬場になると直線スピードが重要になり、中距離の主流血統が走りやすい傾向。

当レースは過去 3 年の 1、2 着馬は、ディープ系 or キングマンボ系 or Pサンデー系。

本命はグレイングリーン。

過去 3 年の同コース重賞で最も勝ち馬を出している種牡馬。

父ディーピンパクトは昇級戦で勢いのある状態での重賞挑戦も積極的な買い。

池江調教師の管理馬は同コースの重賞で過去 3 年で 3 頭の馬券対象馬。人気薄で勝ったスマートオーディーンもサンデー×リファールの末脚型。

相手妙味はPサンデー系のモントライゼとキングマンボ系のリレーションシップ。

モントライゼの父は昨年の同コース重賞でも産駒のレシステンシアがレコード勝ち。過去 10 年で 3 頭の勝ち馬。

リレーションシップはキングマンボ系。管理する須貝調教師は高速芝 1400m 適性の高い馬を多数作る調教師

なお、2020 年以降、芝 1400m の特別戦で 5 勝以上している調教師は須貝、池江、中内田。